

日々の小さな変化に気づく
新しいメンタルヘルス支援のかたち

～ CogEvo-M のご紹介 ～



株式会社トータルブレインケア



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

目次

- CogEvoとは？
- CogEvo-Mができること
- 今回対象となる企業の条件
- 検証内容

製品紹介

脳体力®トレーナーCogEvo®

脳のリハビリテーションから生まれた認知機能のチェックとトレーニングができる科学的根拠に基づいたクラウドサービス

2分

その日のパフォーマンス
が判明

14
種類

豊富なタスク
(トレーニング)

5つの
認知
機能

医療機関でも利用可能な
エビデンスの有る認知機能検査



*特許・ビジネス特許全て取得済 意匠権単独出願準備中

*著作権：レデックス社から独占的使用権を取得済、

【特許番号】特許第7141155号(P7141155) 職能 TBCare

【国際出願番号】PCT/JP2021/021413 職能 TBCare

【国際出願番号】PCT/JP2021/020094 医療機器 TBCare+レデックス社共同

【公開番号】特開2019-208758(P2019-208758A) レデックス社から独占利用権

※2026年にレデックスとは合併予定

認知機能評価ツールとしての 信頼性

- 東海林 幹夫先生（一井先生）
（老年病研究所附属病院認知症研究センター センター長）
- 武地 一先生
（藤田医科大学 医学部 認知症・高齢診療科 教授）
- 前田 潔先生（朴先生）
（神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 特命教授）

標準的な評価ツール

J-MINT研究

- 櫻井 孝先生（杉本先生）
（国立長寿医療研究センター 研究所長）

健康羅針盤

- 渡辺 恭良先生
（理化学研究所 生命機能科学研究センター チームリーダー）

疾患と認知機能

COPD

- 谷向 仁先生（小川先生）
（京都大学 大学院医学研究科人間健康科学系専攻作業療法学講座 准教授）

小児がん

- 橋本 圭司先生（中村先生）
（昭和大学医学部 リハビリテーション医学講座 准教授）

応用可能性

保健指導

- 木村 穰先生（黒瀬先生）
（関西医科大学 健康科学 教授）

スポーツ脳震盪

- 山田 睦雄先生
（流通経済大学スポーツ健康科学部 大学院 スポーツ健康科学研究科 教授）

安全運転

- 大上 哲也（山上先生）
（先生日本薬科大学 薬学部 教授）
- 成木 迅 先生
（京都府立医科大学精神科 教授）

健康経営

- 川上 憲人先生
（東京大学大学院医学系研究科 デジタルメンタルヘルス講座 特任教授）

進行中



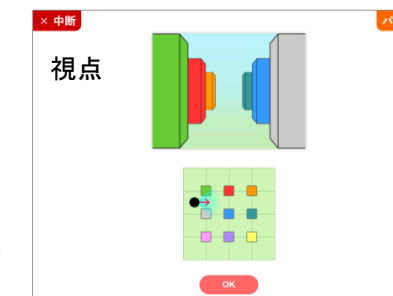
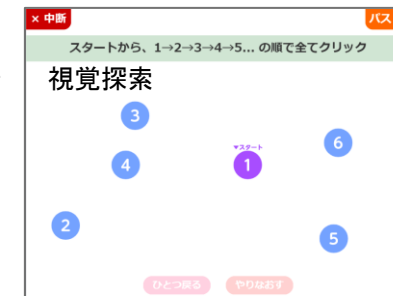
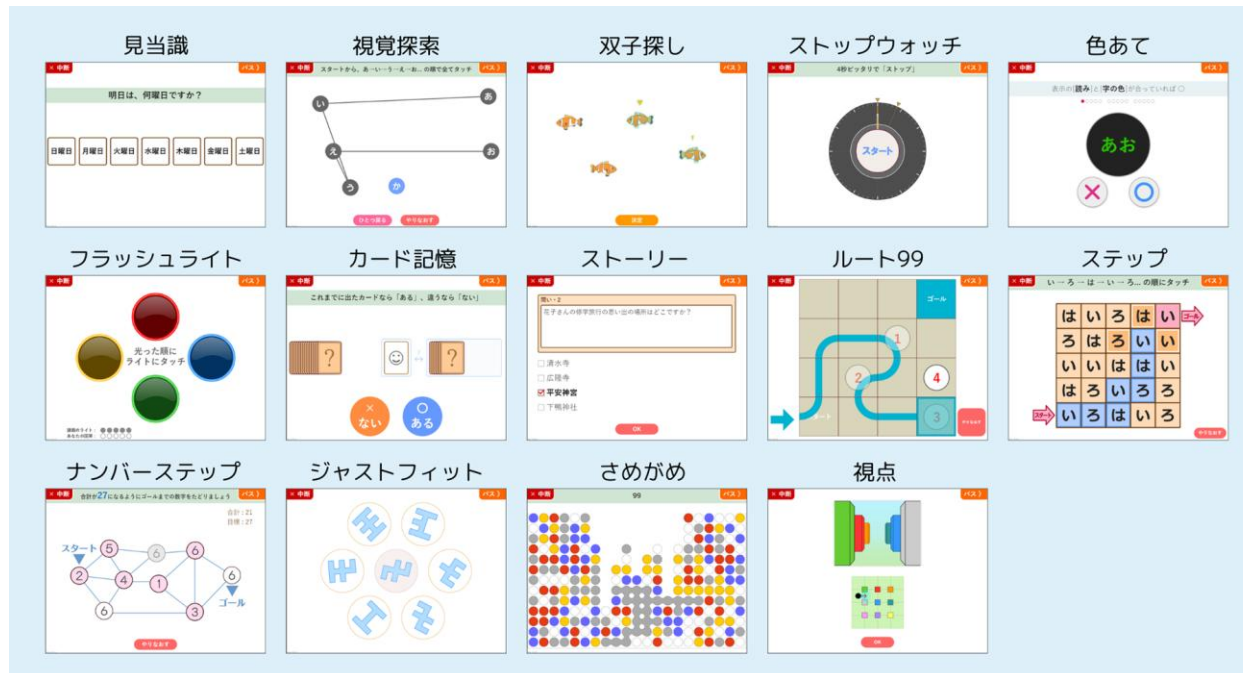
CogEvo-M (メンタルヘルス)

✓ 東京大学との共同研究により右記の3種類のタスクについて、特にメンタルヘルス、ワークエンゲージメント、生産性の基盤となる認知機能を見出すことが分かりました



東京大学
大学院医学系研究科
社会連携講座

デジタルメンタルヘルス講座
Department of Digital Mental Health
Graduate School of Medicine, The University of Tokyo



ストレス
疲労

症
状

Cog Evo M

潜在的な不調



今回参加いただきたい法人について

No.	実証参加の条件項目	必須	備考
1	健康経営優良法人の認定を受けられている法人（もしくは申請予定の法人）	○	
2	健康経営のための体制のある法人様（担当者がいる法人）	○	
3	自組織（会社）の健康課題がメンタルヘルスであると考えている法人	○	健康課題を認識されていれば個別にご相談させていただきます
4	メンタルヘルスの課題解決のための施策効果を客観的に評価したい、と考えている法人		どのように評価したいのかご相談させていただきます
5	エンゲージメント向上のための施策効果を客観的に評価したい、と考えている法人		
6	従業員個人用のメールアドレスとPCまたはスマホが貸与されている法人	○	
7	1事業所で30名以上の参加者が確保できる法人	○	
8	実証計画に前向きに全面協力頂ける法人	○	

検証内容について

実行内容	頻度	備考
CogEvoメンタルヘルスの実施	毎週月、金の朝に実施	実証参加される部署や職場環境によって実施日時のご相談可能です。但し、週2回の実施にはご協力頂きます。
アンケートの実施		アンケート内容はDMH講座監修の質問をベースとしますが、目的に応じ質問の追加などについてはご相談可能です。
目的・課題に応じた情報提供	従業員属性情報（職位、部署など）、従業員別勤怠情報（残業、休日取得など）	例えば、メンタル不調の原因が経験的に部署単位だと考えている、また、残業や休日取得と関係がありそうなどの場合、既存のデータと食い合わせて分析することも可能になります。

・本補助事業での検証の狙い

- ⇒CogEvoメンタルヘルスのアウトプットデータの精度向上（アンケートとの相関評価など）
- ⇒CogEvoのコンセプトである楽しく継続できるかの評価（UI・UX）
- ⇒管理側の使い勝手の評価（多くの従業員を効率よく管理できるかなど）
- ⇒新たな評価として「任意の集団傾向分析」について